

# ジェイテクトにおける戦略的サステナビリティへの取り組み

— Strategic Sustainability Initiatives at JTEKT —



取締役経営役員  
松本 巧  
T. MATSUMOTO

自動車業界では100年に一度の大変革期といわれてもう数年が経ち、その中で戦っていくルールが以前とは大きく変わってきていると思います。たとえば環境対応についてはあらゆるステークホルダーからの期待と要求がますます高くなっており、ESG (Environment・Social・Governance) /SDGs (Sustainable Development Goals) のパフォーマンスをあげつつ、企業価値を向上させるビジネスモデル構築を行うことが必要条件となっています。これこそ当社が基本理念のTOPに掲げる「地球のため、世の中のため、お客さまのため」と同義だと思えます。

## ESG への投資をビジネスチャンスと捉える

昨今、最も注目されているCO<sub>2</sub>削減の例を示します。カーボンニュートラルや製品のライフサイクルでのエネルギー消費において、市場で良い評価を得るためには相応のコストがかかり、投資を強化する必要があります。一方で、ESGへの投資を大きなビジネスチャンスと捉え、その課題を打破する安くて優れた技術が開発できれば、他社よりも優位性を確保でき、ステークホルダーにも評価されます。結果としてそうなれば、素晴らしいことではないでしょうか。つまりESGに関わる投資を強化するということは、新規事業やイノベーションへの取り組みをESG観点で考えて強化することと同義であると考えます。

たとえば電動車への置き換わりを見てみましょう。電動車が増えれば、従来の変速機がモーターと減速機が一体となった電動アクスル (eAxle) という商品に置き換わります。その結果、モーターの高速回転を支える軸受

や高速回転でも静かにかみあうギヤを提供するなどの新たな要求が追加され、製品変化が生まれます。当社の製品であるギヤを、さらに最先端のモノづくり技術で進化させればお客様の期待を満たす優れたギヤを提供できると考えています。これを目指して当社は昨年ギヤビジネスを専門に対応するギヤイノベーションセンターをスタートさせています。

さらにESG観点で有望な将来市場が何かと考えてみると、生産の省人化や介護サポートに向けたロボット市場、宅配や運送など様々な用途で使われる可能性のあるドローンやAGV (Automated Guided Vehicle: 無人搬送車) 製品市場などを想像することができます。ここでも新たな性能要求にこたえるギヤ製品を開発することで世の中に貢献できるとの発想になり、結果さらなる事業拡大を目指すことができます。

## イノベーションがサステナビリティを支える

サステナビリティを今一度考えたときに、先に説明したESGへの対応を強化することが持続的な発展を遂げるために必要だと思えます。今ある技術やシーズを活用して、新たな製品開発や、事業領域への踏み込みなど、ESGへの投資を仕掛けていくと必然的に当社のポートフォリオの入れ替わりや拡大へと繋がると思えます。そのときに製品のライフサイクルにおけるCO<sub>2</sub>削減効果は優れているか、リサイクルやリユースはできるかなど、今までの性能や質量などとは違ったKPI (Key Performance Indicator) を見ていく必要があります。今後は製品設計の段階から、ライフサイクル全般を通じたエネルギー消費量や再利用を考え、より環境に配慮し

た製品を作っていかなばなりません。ここはまだ当社としても習慣づいていないので今後取り組み強化すべき点です。

ジェイテクトは今後も社会に貢献できる企業としてイノベーションを起こし、お客様の要求にこたえられるよう難しい課題もチャンスと捉えて戦略的サステイナ

ビリティの次元をさらに高めるための挑戦をしてまいります。そのために社員ひとりひとりが、ESG視点で取り組むべき課題を発見・創造し、課題に対処できるような組織・しくみ・人財をつくることにも取り組んでいきたいと思ひます。皆様のご支援を引き続きよろしくお願ひいたします。